

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日普上人

寺楽寿

No.35

平成31年1月1日発行



本覺山 妙壽寺 (法華宗 (本門流))

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ <http://myojyujj.or.jp>



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗 (本門流)

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



宗祖御誕生八百年慶讃・御会式・
本堂落慶三十五周年・
烏山移転九十周年記念・天童稚児法要

昨年11月3日、秋日和のなか、当山の御会式に併せて日蓮大聖人御誕生800年慶讃、本堂落慶35周年、烏山移転90周年記念天童稚児法要が法華宗宗務総長二瓶海照台下を御導師にお迎えし、組寺、有縁各上人ご出仕のもと、檀信徒300余名参詣にて奉修されました。午後2時の法要に先立ち、同1時にお向かいの永隆寺様より可愛く着飾ったお稚児さん36名が当山外周を練り供養されました。

また、堂内では沼津市西之坊住職宮村光明上人による記念法話「宗祖御誕生の意義」が行われました。法要では稚児献華に続き、婦人会による献灯・献香・献華・献茶・献膳が行われました。そして二瓶海照台下による慶讃文(本紙裏面参照)、当住上人奉告文が奉読され、唱題のなか、法要は厳かに奉修されました。

法要後4時半より鍋島客殿(写真下)において、ご出仕のお上人、総代世話人、婦人会、関係各位による懇親の席が催されました。



乾杯のご発声法華経寺住職久野泰瑞上人(左奥)



祝辞は、東京教区宗務所長・当山相談役・永隆寺住職木下信隆上人



寺日記

てらにつき

●9月1日 佐藤日賢祝下 第一三七代管長推戴式

夏を思わせる暑さのなか、茂原市・大本山鷲山寺本堂において佐藤日賢祝下法華宗(本門流)第一三七代管長推戴式が厳粛に奉修され、「リソル生命の森 ホテルトリニティ書齋」において盛大な祝賀会が開催されました。

●9月3日 日蓮宗管長菅野日彰祝下就任祝賀会 主催/日蓮宗宗務院・立正学園・大本山池上本門寺 於 帝国ホテル

●9月5~7日 法華宗教学研究所総会 於 大阪「エルセラートン大阪」

●9月23日 彼岸中日法要

時折晴れ間も見える秋の空のもと、参詣者300余名のお参りを得て、中日合同法要が営まれました。

●9月30日 元横綱日馬富士引退記念激励会 於 帝国ホテル

●10月8日 佐々木加奈嬢・大橋俊夫氏結婚披露宴

英国ロンドンの閑静な住宅街リッチモンドに付むピーターハム・ホテル&レストランドにおいて、徳島市妙法寺住職佐々木明乗上人、和子夫人(当住従姉)長女加奈嬢と、英国キヤノン勤務の大橋俊夫氏の結婚披露宴が和やかに行われました。(写真左下)



一風風石堂「春の宴」(妙壽寺猿江別院本堂内陣) 仏画師 中村英希 画

猿江▼猿江別院 10月5日 第4回写経会 12月7日 第5回写経会
鶴沼▼晴明庵 8月22日 恒例の伊東・楠山家御宝前法要に続き、伊東港より船にて日蓮聖人伊豆流罪の霊跡・祖岩に詣で、海施餓鬼供養が行われました。
11月23日 快晴の中、三吉妙真・伊東妙潤尼御導師にて、御会式法要が奉修されました。
桑港▼日蓮教会 11月18日 暖かな日の中、サンフランシスコ日蓮教会に於いて、秋彼岸と御会式法要を当住上人と園田師により、30余名の参加者を得て奉修致しました。昨年の11月に逝去された宗本さんのご子息マイケル氏を新しく理事に迎え、これからの日蓮教会の発展を皆さまとお祈り致しました。

宗務院 DIARY
内局会議 8月27日, 9月19日, 10月2日, 11月19日, 11月29日, 12月12日
宗門史編纂委員会 8月29~30日, 10月25~26日, 12月4~5日

猿江別院写経会のご案内
平成31年 1月11日 2月8日 4月5日 6月21日 8月9日 10月4日 12月6日 (全日金曜日です)
猿江別院のご朱印ができました

正隆会 [SHORYU-kai] 午後2時開催
1月5日(土) 初題目・勉強会 福島泰樹著「日蓮紀行」拝読3
2月3日(日) 節分会・勉強会「日蓮紀行」拝読4
3月16日(土) 正隆会「春のウオーク」別紙参照
4月13日(土) 勉強会「日蓮紀行」拝読5
5月7日(火) 猿江稲荷大祭
6月8日(土) 写経会
7月13日(土) 興隆学林平島盛龍教授特別講義
8月 休講

- 10月15日~17日 兵庫教区教学講習会 於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 10月18日 日蓮門下連合会京都理事會 於 大本山本能寺・京都ホテルオークラ
- 10月24日 箱崎妙法精神研究会解散法要 当山先々代大僧正日照上人徒弟菊地観朗上人設立の妙法精神研究会が閉鎖されるに当たり、当住上人により解散の報告法要が奉修されました。
- 11月3日 御会式・宗祖御誕生八百年慶讃・昭和和本堂落慶三十五周年・烏山移転九十周年記念法要(表紙参照)
- 11月6日・7日 第4回布教研究所研修会 於 代々木立正寺
- 11月7日・9日 第29回WFB世界仏教徒会議・第2回WFBY世界仏教徒青年会議・第11回WBU世界仏教徒大会 日本大会
- 7日開会レセプション、於 マロウドイン ターニシヨナルホテル成田。9日大会式典、世界平和祈願法要、於 横浜市鶴見区・曹洞宗大本山總持寺。
- 11月21日 津川雅彦さん 朝丘雪路さんご夫妻 合同葬お別れ会
- 当山先々代日照上人親友伊東深水画伯令嬢の朝丘雪路さんと、夫君津川雅彦氏のお別れ会が青山葬儀所において営まれ、当住上人も参列されました。
- 11月24日 落語独演会&竹灯籠能「紅葉狩」
- 11月26日 (公財) 全日本仏教理事會 於 浄土宗教化研修会館(京都市)
- 11月28~30日 宗務院研修会旅行 三重 県松阪・伊勢・鳥羽・名古屋
- 11月30日 日印文化交流ネットワーク総会 於 神田神保町・学士会館
- 12月6日 歴代法要・総代会・お祝い会 於 当山、新宿伊勢丹「正月屋吉兆」
- 12月7日 烏山仏教会 於 常福寺
- 12月10日 東京ブディストクラブ「成道会チャリティの夕べ」 於 帝国ホテル
- 12月14日 中央義士会、追悼法要・講演会 於 高輪・泉岳寺
- 12月23日 お焚き上げ法要

一之輔落語&竹灯籠能「紅葉狩」
昨年11月24日午後1時より、第8回目を迎えた「落語×竹灯籠能」が当山本堂において挙行されました。はじめに落語独演会で春風亭一之輔師匠は「鈴ヶ森」「二番煎じ」を披露。師匠の巧みな噺に本堂は終始笑いに包まれ、古典落語の醍醐味を堪能しました。休憩(鍋島客殿にて振る舞い酒)をはさみ、浅見慈一師、当住上人によるミニレクチャーの後、竹灯籠能「紅葉狩」が演じられました。御宝前の前には境内の紅葉を供え、終演の頃に灯した竹灯籠の灯の中、臨場感あふれる舞台となりました。

11月13日 内田祥哉先生講演会
新木場から木材の情報発信をしている新木場倶楽部が主催、三浦清史先生(こうだ建築設計事務所主宰・妙壽寺客殿保存会委員)が所属するJIA埼玉(日本建築家協会関東甲信越支部埼玉地域会) 共催による「木まつり2018」のシンポジウムが、当山鍋島客殿において開催されました。今回は、失われつつある近代和風建築をテーマにしており、客殿として活用されている鍋島客殿を会場に行われたシンポジウムは、当山総代および妙壽寺客殿保存会委員長の内田祥哉先生(東京大学名誉教授)による「和風民家のフレキシビリティ〜プレハブから和風民家〜」、同じく保存会委員の後藤治先生(工学院大学理事長)「近代和風の活用と保存」の基調講演が行われました。この他、9月22日には法政大学の網野禎昭教授「ヨーロッパの木造建築から“木と建築と社会”を考える」、11月16日には東京都市大学の宿谷昌則教授「エケルギーの読み方・考え方」のご講演が、「木まつり2018」の連続シンポジウムとして猿江別院において開催されました。(関連記事裏面参照)



宗祖御会式・御生誕八百年慶讃 本堂落慶二十五周年・ 烏山移転九十周年記念 法要

慶讃文

南無開述顯本 本門の本尊 本門の戒壇本門の題目 三大秘法総在 本門八品上行所伝 本因下種の南無妙法蓮華経
南無久遠実成大恩の教主釈迦牟尼世尊 証明法華の多宝如来 南無本化 一名上行 二名無辺行 三名淨行 四名安立行 等の四大菩薩 総じては一閻浮提の内 未曾有の大曼荼羅 勸請の諸尊 御威光倍增御報恩謝徳 南無妙法蓮華経
南無末法下種の大導師 高祖日蓮大聖人大慈大悲大恩御報恩謝徳 南無妙法蓮華経

宗門如法弘通の先聖人 殊には光長寺同時二祖日春日法両聖人 鷲山寺開基日弁聖人 本能寺・本興寺開基法華宗再興弘通の唱導師日隆聖人 当寺開山日崇上人等 歴代先師先上人 御報恩謝徳 南無妙法蓮華経
上来勸請の三宝諸尊知見照覧の御宝前に於いて 宗祖日蓮大聖人御会式・御生誕八〇〇年慶讃天童稚児法要 本覺山妙壽寺昭和新年落慶二十五周年 烏山移転九十周年記念法要を奉修するにあたり慶祝の儀を宣べ奉る

そもそも当山本覺山妙壽寺は その前身である妙感寺を本光院日受上人が寛永八年 江戸谷中清水町にて開創することを端とす
その後 寛文年間に信入院日崇上人が猿江村鎮守稻荷社別当となり 妙壽寺と寺号を改め関東法華勝劣派として法線を張るしかしながら 大正二年 関東大震災の災厄により無修一期にして烏有と化すも 大本山妙蓮寺第六十八世 元宗務総監三吉日照上人によりて再建す

現任職 三吉廣明師は 昭和五十六年に第二十六世として法燈を継承 正法弘通のため 檀信徒のため 増々 法燈増輝すること三十七年間
ことに廣明師は 任職就任間もない昭和五十九年に新本堂を落慶す
その後 旧鍋島邸である当山客殿を中心として寺観を整え 管理棟の増設 平成七年には西祥苑 平成二十一年には東祥苑を新築す
ことに師の正法興隆の志念篤く 平成二十九年には 妙壽寺宿縁の聖地に猿江別院法城の再建という浄業を結ぶ
宗門にありては 平成二十一年より法華宗宗会議員に就任 また 平成二十五年よりは某しが宗務内局の部長として 教 学部長 総務部長を歴任し 宗門興隆に尽力する御法愛宗の 志念篤き者なり

恭しくおもひみるに我らが宗祖日蓮大聖人は 今より 七百九十六年前の貞応元年二月十六日 関東の東端 安房国 小湊に御生誕し善日磨と命名
その後 十二歳の御年に 葉王磨として出家得度 十六歳にして道善房を師と仰ぎ 是聖房連長と名付けられ 末法の衆生救済の法を探すため鎌倉・比叡山・奈良など諸国に求道の 修学に赴く
修学すること十数有る年間 建長五年四月二十八日 清澄の山 において三十二歳の御年に「明らかなること日月にすぎんや 淨きこと蓮華にまさるべきや 法華経は日月と蓮華となり 故に妙法蓮華経と名く 日蓮また日月と蓮華との如くなり」と 名を日蓮と改め 南無妙法蓮華経の御題目を大唱し 唱題開宗を宣揚する

以来 宗祖は末法の衆生のため法華経を弘めるがゆえに 常に 悪口罵詈雑言杖流罪死罪の難あり 殊に御年四十歳では伊豆伊東の粗岩に流され 四十三歳では小松原にて眉間に三寸の傷をこ うむり 五十歳では竜ノ口にて死罪の難をのがれ その後佐渡に流され三カ年風雪に身をまじく
この佐渡在島にて 自身こそが末法における法華経の行者・上行菩薩の応現の仏使であることを自覚され また末法に弘める 信行の本尊である十界互具の大曼荼羅を示さる
御年五十三歳にして身延に入山し 正法流布のため後進の育成 につとめるも 弘安五年十月十三日 聖寿六十一歳にして池上の地にて御入滅せらる
宗祖が「我不愛身命 但惜無上道」の経文のごとく 死身弘法をされたるは我ら末法の衆生のためなり それ故開宗より 七百六十五年を経た現代に生きる我々が 本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華経の御題目を唱えることに叶うるは 偏に宗祖日蓮大聖人の「日蓮が慈悲廣大ならば、南無妙法蓮華経は万年の外 未来までもながるべし」との誓願の如くなり

茲に当山の大法会にあたり 宗祖日蓮大聖人の御威徳を慶讃し 本覺山妙壽寺の堂宇諸縁吉祥にして永く三災四劫を離れ 参拝の信男信女の面々 心願成就 息災延命 信心増進せられんことを祈念し奉る
又 願わくは任職をして 益々の信心増進 法体堅固ならしめ給え
重ねて回向供養し奉るは当山各家先祖代々の諸精霊追善供養証大菩提ならしめ給え

維時 平成三十年十一月三日法華宗宗務総長

権大僧正 二瓶海照

妙壽寺客殿保存会



妙壽寺客殿とは

平成20年12月25日、妙壽寺客殿は世田谷区指定有形文化財に指定されました。

妙壽寺客殿は、かつて麻布区飯倉狸穴町(現港区麻布台2丁目)にあった旧肥前国蓮池藩鍋島家の住宅として建てられたものです。維新後10代直柔(安政5〜明治43年 1858〜1910、貴族院議員・子爵は、飯倉狸穴町に邸宅を構え、明治37年には息子直和(明治17〜昭和18年 1884〜1943)の結婚を控え、2階建ての和館を建てました。しかし、昭和2年(1927)には、この建物を妙壽寺に譲渡し、また、昭和3年(1928)には、飯倉狸穴町の土地もソビエト大使館(当時)に売却しました。(『せたがやの文化財』No.021より抜粋)

有形文化財指定までの経緯

この客殿を世田谷区の指定文化財にするきっかけは東祥苑の建築でした。住職のお住まい西祥苑竣工後も客殿に附属して台所や食堂そして水場まわりなどが残っていました。建築基準法(以下基準法)上ではこれらはその時点で取り壊すべき建物でしたが、お寺としては不可欠な機能なので、実情に即して新築したのが第二庫裡東祥苑です。
基本計画は内田祥哉先生。年齢を感じさせぬ柔軟な発想で、事務機能を含めた

昨年6月18日、「妙壽寺客殿保存会」が設立され、第1回委員会が当山鍋島客殿において開催されました。

設立にあたって当任上人の挨拶があり、その後、各委員の自己紹介が行われました。委員会は保存会の設立の趣旨と目的、世田谷区の文化財に指定されるまで、などの報告、保全のための調査および修理について意見を交わし話し合われました。

第二庫裡を鉄筋コンクリート造で客殿に接して建てようという大胆な提案です。防火上安全な東祥苑から火がでなければ、その建物自体が客殿への延焼を防ぐはずで、本来なら客殿に増築できればよいのですが、そこで立ち上がるのが基準法。増築するもとの建物も現在の基準法に適合するように直さなければならぬという規定があるからです。そうして古い建物を現行法規に適合させていこうという建築行政の意志なのでしょうが、この基準法、ことあるごとに改正されてきたので、昭和初期の建物を現行法規に合わせようとすれば、その面影はほとんど失われることになってしまいます。そこでわずかに離して別棟増築とすれば両建物の一定の範囲を防火処理していれば、客殿の内部などまで改変する必要はないのですが、防火処理の範囲は妻側にまで及びます。すると象徴的な千鳥破風などの表情が失われることとなります。ではどうすればよいか。考えられる三つの方法が検討されました。一つは防火壁を設ける方法。千鳥破風も大屋根のところは防火処置をしなければならぬ範囲外なので、その部分は残し、他の防火処理が必要なのは撤去してしまおうというのが第二の方法です。

これらは現行の基準法のなかで解決しようという姿勢ですが、客殿を文化財に指定し基準法の適用除外にするという三番目の手段があります。何回もの総代会で議論した結果、最後の方法をとることが決まり、世田谷区有形指定文化財となり、その時の姿で次代に継承されることになりました。

「妙壽寺客殿保存会」第1回委員会出席メンバー

会長 三吉廣明 (妙壽寺住職)

委員 内田祥哉 (東京大学名誉教授、当山総代)

委員 坂本 功 (東京大学名誉教授、一般財団法人日本建築防災協合理事長)

委員 後藤 治 (工学院大学理事長)

委員 重枝 豊 (日本大学教授、世田谷区文化財保護審議会委員)

委員 田中昭之 (株式会社建文 附属研究所 建築文化研究所)

委員 三浦清史 (こうだ建築設計事務所)

アドバイザー 大谷 昇 (世田谷区教育委員会 文化財係長)

アドバイザー 佐藤明子 (世田谷区教育委員会 文化財資料調査員)

アドバイザー 木川正也 (株式会社建文 附属研究所 建築文化研究所)

アドバイザー 平井ゆか (内田祥哉建築研究室)

保存会設立の目的と趣旨

平成28〜29年に行われた妙壽寺客殿の修繕は緊急を要する短期修理で、5〜10年後には大規模修繕が必須です。また耐震に関しても、母屋と車寄せは既に行われているものの、広縁や階段室を含めた全体としての耐震化は、大規模修繕計画